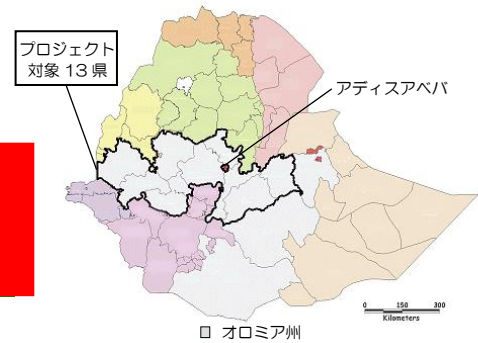




Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために！



同じ「目線」のプロジェクト

～ 佐々木克宏エチオピア事務所長からの離任メッセージ ～

Ho! ManaBU の活動状況を伝えるしんぶんを、毎回楽しんでいる読者として、離任にあたり自分の感想を述べる機会が与えられたことは、大変嬉しく光栄なことです。

Ho! ManaBU が実施されているオロミア州は、エチオピア国内で最大の州であり、また人口も約 3,000 万人とエチオピア国内随一の人口を擁する州です。オロミア州はアフリカの他の国と比較しても規模の大きな州で有り、プロジェクトの活動は「州」の規模を越えた、一つの「国」に対する事業の実施に匹敵する努力が必要になります。ちなみに、先の ManaBU プロジェクトからカウンターパートであるオロミア州教育局(OEB)のダレジェ局長は、言い替えれば一つの「国」の教育大臣と同じ役割と責任を負っていることとなります。

日本の対エチオピア支援額は毎年微増ながら増加し支援事業を増加している一方、他のドナーは対エチオピアへの支援額を大幅に急増させています。量的な支援拡大に加え、ドナー協調と支援ドナーの役割分担(DOL)議論が、より身近に議論されることとなっています。こうしたエチオピアの環境下で実施される、JICA プロジェクトの比較優位(強み)とは何であるのか、またプロジェクト成果のエチオピア側との具体的な共有のあり方について引き続き検討を進めていく必要があります。

JICA プロジェクトの強みとして、プロジェクトの目標達成のため専門家が継続して「現場で、同じ高さの目線」でカウンターパートと活動に取り組むことがあげられます。現場での活動なくして、問題の確認は不可能であり、また解決策の適用とその結果の確認も現場に於ける不断の作業の継続が不可欠です。

現場密着型の Ho! ManaBU プロジェクトにおいては、継続して現場での「同じ目線」での活動をベースとし、課題の発見と解決の検討をエチオピア側と共有したプロセスを積み上げることにより、目標成果を達成することを期待します。現場で活動する日本人専門家の苦勞なしで、プロジェクトの成果を達成できないことは言うまでもなく、改めて専門家の苦勞に感謝を表します。



ManaBUの樹に葉(手形)を貼る佐々木所長

戻ってきました！よろしく

ティナィスティリン！アッジスアベバ。アッカム！インジェラとカイワット。そして、さらば納豆と卵かけごはん、さらばアジの開き、さらば淡麗辛口、さらば溪流の美しい魚たち、さらば満開の桜...。すみません、ちょっと泣いてしまいました。

というわけでこんにちは、去年ここで教材をこしらえた菊池ガラナです。お元気でしたか皆さん。また来ちゃいま



した。去年の教材はまあそこそこウケてもらえたようでいい気になってまた来てみたわけですが、今年のテーマは「問題分析と計画策定」ってあーた、一体どうすりゃいいんですか、これ？ まあ、ワタシが去年考えたテーマなんですけどね...。いい加減な思い付きを口にする結果自分の首を絞めるという...。肝に銘じたいものです。でもまあみんなの知恵を借りれば何とかできるでしょ。何か作ります。ダイジョーブ、ダイジョーブ。

で、ちょっとやりたいのは、今年のテーマも勿論なんですけど、今回はね、何かこの、コミュニケーションと情報共有の仕掛けを作れないかな、と思ったりしてのでした。去年つくづく思ったのは、どこのコミュニティでも、得ることのできる情報量ってあまりにも少ないのではないかと、ということだったわけですよ。情報が少ないということは、結局自分たちがどこに居るのか、どういう状態にあるのかを外と比較して確認する術が無いということで、ここをどうにかしないと何をすることもモチベーションって持ち難いのではないかなあと思ったわけです。でね、今はプロジェクトと各コミュニティとの、いくなれば垂直的な情報のチャンネルは在る、と。でもプロジェクトが吸い上げて集積した情報を、もう一度コミュニティに還元する仕組みはどうなのか、コミュニティ同士の情報交換や経験のシェアはどうなっておるのか。つまり情報の水平な、面的な広がり、とでも申しましょうか。何か、プロジェクトがハブになって、そんなコミュニケーションの場所を提供するような仕掛けにちょっと興味があったりします。というわけでまた4ヶ月、はてさて、どうなりますことやら。とりあえず、ヨロシクオネガイシマース！（菊池ガラナ）

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

エピソードてんこ盛り

～ EFA (万人のための教育) 会合訪問記 ～

Ho! ManaBU しんぶん読者のみなさま、こんにちは！
JICA 本部人間開発部の教育専門員水野と基礎教育グループ特別嘱託の上野です。我々は第9回 EFA ハイレベルグループ (EFA-HLG) 会合に参加するため、2月22日～26日にアディスアババを初訪問。今回のエチオピア滞在は5日間ですが、エピソードは盛りだくさん！その一部を皆さんに紹介します。

1：魅せられて、エチオピア文化

エチオピアと言えばインジェラ。エチオピアに縁の深いある方いわく、「インジェラとの相性＝エチオピアとの相性」らしい。さて、わたくし上野との相性はいかに！？結果はといいますと、微妙です(笑)。酸味の先制攻撃が予想以上に強烈で、ちょっと怯んでしまいました。というわけで、一目惚れとはいきませんでした。未永くおつきあいしていく所存です(意味深ですか?)。そして、もうひとつ強烈な印象を与えてくれたのがエチオピアダンス。あのMJがスリラーで披露した独特のダンスはエチオピアダンスから盗んだもの、と実しやかに現地では囁かれています。とにかく肩の動きがすごいです。「あれだけ動かしていたら肩こりとは無縁だろうな」とつぶやいた「肩こり世界チャンピオンの上野」でした。



歓談する水野専門員と上野さん(左)

2：犯人は誰だ！？ - 展示教材の行方 -

今回の出張目的である EFA-HLG 会合ですが、開会式にはメレス首相、デメケ連邦教育省大臣、全州教育局長などが参加し、エチオピア政府の意気込みが随所に感じられました。全体会合では、同大臣から、EFA 達成には教育への住民参加が不可欠であることが力説されました。大臣が重要だと認識している取組みへの支援を行っているのが、我らが Ho! ManaBU。大臣には事前にプロジェクトの紹介パンフをお渡し、発表の際は Ho! ManaBU に触れつつ、EFA の進捗において著しい進歩を見せたエチオピアの成功の秘訣を聞いたりして、会合の中で可能な限りプロジェクトをアピールしました。「地道なロビー活動?が報われた」「我ながら頑張った」と、悦に浸っていたのもつかの間、嫌な予感がして、会場の外に飛び出すと、なんと、大臣の発表前にはあったプロジェクト研修マニュアルが消えているではないですか!「展示用」と張り紙をしておいたのに... まあ、反響の大きさが計り知れる微笑ましいエピソードということで監督不行き届きの点はご容赦いただければと思います(ダメ?)。



展示用マニュアルを手に取る参加者

3：突撃訪問！ - ダレジェOEB局長との懇談 -

滞在最終日は OEB 内にあるプロジェクトオフィスを訪問。HLG 会合で、Ho! ManaBU が紹介されたことをダレジェ局長が喜んでいただいていたと聞いて嬉しくなり、アポなしで局長のお部屋におしかけちゃいました。しばし談笑の機会を得たのですが、局長はプロジェクトに対する期待や感謝、教育への熱い思いを語ってくれました。実はこの日は祝日で OEB はお休み。休日出勤するほど忙しいにもかかわらず、気軽に私たちのアポなし訪問を受け入れてくださったことから、プロジェクトとの信頼関係がわかります。OEB との密接な連携のもと、Ho! ManaBU がどのように発展していくのか楽しみです。

4：情熱に心動かされ - プロジェクトとの意見交換 -

限られた時間でしたが、プロジェクトチームと教育現場・プロジェクト活動・今後についてなど、ざっくばらんに意見交換を行いました。私たちも他国の住民参加型学校運営プロジェクトに関わった経験があるので、エチオピアにおける住民参加についての話は非常に興味深く、時には大きくなつきながら、また時には驚きながら、野邊さん(フラ)のお話に聞き入ってしまいました。特に「エチオピアでは住民参加は当たり前で、既に存在するもの。だから参加をどう引き出すかではなく、参加をどう教育の改善に効果的・効率的につなげていくか、その支援に取組んでいる」という言葉が印象的でした。プロジェクト作成の研修ビデオなどを拝見し、どんな意図で何を「仕掛けている」のか、ほんの一部だと思えますが理解できました。もっと議論したかったですね！プロジェクトのこと、現場のことを語りだすと止まらない皆さん。次から次へと出てくる話題はそのまま溢れ出るプロジェクトの情熱だと感じました。既存の資料だけではなかなかわからない現場の様子やプロジェクトの葛藤・想い・苦労、そしてやりがいを直接お聞きする中で、プロジェクトの取組みをサポートするために課題部/自分たちは何をしなければならぬのか、何が出来るのか、そんなことを考えていました。子どもたちの笑顔に会うために、プロジェクトチームが OEB とともに描く壮大なストーリーを我々本部も事務所と一緒に頑張って応援していけたら、そう心から思っています。残念ながら詳しくお話できないのですが、この他にも二人で「We Love Ethiopia!」と叫んでしまうようなエピソードもあり、心に深く残る特別なものとなりました。事前の資料準備や休日のプロジェクト訪問受入れなど、プロジェクトの皆さんには本当にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。(水野&上野)

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

学校レベル研修はどんな状況？-2 ～ プロジェクト独自のモニタリングを通して～

2ページでしんぶんを終えてしまうと、投稿だけで構成されプロジェクトの進捗はどうなってんだ！とお叱りを受けそうなので・・・。今月号も3ページで・・・。

前号のしんぶんでもお伝えしましたが、コミュニティ（地域住民）を対象とした学校レベルの研修状況を把握するため、プロジェクトチームはモニタリングを実施しています。今回は、アルシ県のアセラ特別市での様子について、写真をまじえてお伝えします。

アセラ小学校での研修会場に足を踏み入ると、研修マニュアルに書いてある通り、ゲームシートや指示カードなどの研修教材が準備してあり、「ん、これは期待できるぞ！」というのが第一印象！グループを分け、代表者を選出し、各



グループのキャラクターが決定され、進行役が配った児童のタグを胸につけ、いよいよゲームのスタート！「何度も研修をやってきたんだな」と一目瞭然で、進行役の言葉かけ、議論の持っていき方などピカイチでした。さらに進行アシスタントと

のチームワークも抜群で、指示カードに書かれた内容について議論が始まると、参加者全員にも分かるように一人が板書し、もう一人が研修キットに入っている「フィードバックシート」に記入していました。こうしてきちんと組織・系統だった研修は、参加者たちを飽きさせることはもちろんなく、楽しくかつ充実していて、観察している私たちもうれしい気持ちになりました。



アセラ小学校の研修が終わると、一緒にモニタリングに参加したアセラ特別市教育事務所（STEO）計画課のカタマ行政官から、「もう一つのCRC（クラスター・リソース・センター）の中心校のリマット・ベヒビレット小学校でも午後から研修が実施されるけど、モニタリングに行かないか？」と提案がありました。



集まった児童や保護者と協議する校長

小学校に到着すると、何やら児童とその保護者らしき人たちが、校長の話に耳を傾けています。なんと、今日は小学1・2年生の中で成績が悪かったり、欠席が多い児童などとその保護者を集め、現状とともに改善策を協議しているとのこと。「この話し合いの後に、今日集まった保護者を対象に Ho! ManaBU 研修を実施するのです」と誇らしげに校長が説明してくれ、「それはいいアイデアだ！」と叫んでしまいました。「他の学年でも計画している」との補足説明もあり、「コミュニティを集めるのに苦労している」と言っていた他の小学校にも伝えなければ！と思いました。

さて、会場に移動し研修を開始したのですが、我々が観察していて緊張したのか、進行役が研修の目的を説明せずに「今からゲームを始めます」と言う「ゲームをしている時間はないから帰ります」という参加者がいて、苦笑いの場面もありました。また、この地域の住民は、アムハラ語しか理解できない人々が多数いるということで、進行役が指示カード（オロモ語）を読み上げた後、アシスタントがアムハラ語に訳す場面も見られました。さすがに広いオロミア州、いろんな地域があることを改めて実感しました。

